

タモキシフェン服用患者におけるパロキセチンの併用状況

渡邊 尚也¹⁾、中島 直幸²⁾、澤邊 陽美³⁾、山本 健士郎⁴⁾、森本 真貴⁵⁾、
四百刈 敦子⁶⁾、片山 珠季⁷⁾、永野 悠馬⁸⁾、前田 守⁸⁾、長谷川 佳孝⁸⁾、
月岡 良太⁸⁾、森澤 あずさ⁸⁾、大石 美也⁸⁾

- 1)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 岡大病院店
- 2)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 愛大病院店
- 3)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 朝霞青葉台店
- 4)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 自治医大店
- 5)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 大通西店
- 6)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 鹿浜店
- 7)(株)アインファーマシーズ
- 8)(株)アインホールディングス

【目的】 タモキシフェン(以下、TAMとする)は、CYP2D6、CYP3A4 による代謝産物が薬理活性を示し、CYP2D6 を阻害するパロキセチン(以下、PRXとする)と併用することで効果が減弱する。併用が乳癌の死亡リスクを増加させた報告もあり、注意が必要である。そこで、外来がん化学療法での TAM と PRX の併用状況と併用を回避したプレアボイド事例を調査し、外来がん化学療法で薬局薬剤師が果たすべき役割を検討した。

【方法】 2017 年 4 月から 2020 年 10 月に当社グループ保険薬局が女性から応需した処方箋 32,226,402 枚を対象に、TAM と PRX の処方状況を調査した。また、当社グループの薬局プレアボイドから、これらの併用回避に関する事例を抽出した(アイングループ医療研究倫理審査委員会承認番号:AHD-0106)。

【結果】 全応需処方箋に占める抗がん剤処方箋の割合、及び抗がん剤処方箋に占める TAM 処方箋の割合は、2017 年 4 月ではそれぞれ 1.15%と 19.8%、2020 年 10 月ではそれぞれ 1.24%と 18.4%であった。全期間での TAM 服用患者の PRX 併用率は 0.076%であった。また、以下の事例を確認した。60 歳代の TAM 服用患者が服用開始 2 ヶ月後に持参したお薬手帳から、他院・他薬局での PRX の処方を確認した。それぞれの処方医に相談し、PRX はセルトラリンに変更された。

【考察】 同一薬局で応需した処方箋での併用率はわずかであったが、他院・他薬局での併用に注意が必要であることが示された。本事例では、お薬手帳による服薬一元管理が併用回避につながった。したがって、薬局薬剤師はかかりつけ機能による

服薬一元的管理を発揮し、安全な外来がん化学療法の実施に貢献することが必要である。

(第31回医療薬学会年会(2021年10月, Web)にて発表, 一部要約)